

特色ある学校

「日本一の校舎に日本一の学校教育」という理想を掲げて ～新しいビジョンをもって文武両道の姿勢で臨む～

学校法人名古屋工科大学名古屋工業高等学校教諭 澤田 晃

1. はじめに

創立90周年を3年後に控えた本校は、近年、資格取得・検定合格の実績で飛躍的な発展を遂げ、総合力で日本一を目指せる位置にきた。生活指導も、永年の地道な取り組みが奏功し、ひと昔前に掲げられた4つの教育目標である「規律ある生活」「授業態度の育成」「校内美化」「出席率の向上」という課題もほとんどクリアし、学園の理想に近づきつつある。

そうした学校環境の好転に加えた、教職員と生徒の工夫と努力の積み重ねの成果は、クラブ活動の戦績にも表れ始めた。現在、本校の職員室には、「文武両道」という言葉がしきりに飛び交う。工業高校の本分である知と技を育てる職業教育を「文」とするならば、身体を動かして心身を磨くクラブ活動や委員会活動が「武」である。本来、人間性と生きる力を高めるといふ普遍的課題に臨む時、学校教育現場において、いずれも軽視してはならないものである。この「両輪」が成功を取めてこそ、最高レベルの学校教育活動の実現となるのである。

本校は、新校舎の建設後に必然的に生まれた「日本一の校舎に日本一の学校教育」という新しい理想に、この「文武両道」の姿勢で臨む。

2. 本校の沿革と概要

大正9（1920）年、「名古屋工科学院」として名古屋市中区新栄町に創立。土木科と機械科

の2科で始まり、2年後に建築科を設置、その後、学校の拡充とともに移転と校名変更を繰り返し、昭和4年、全国私学工業学校では5番目に「甲種工業学校」としての認可を受ける。

昭和23年、現在の校名である「名古屋工業高等学校」となり、時代のニーズと社会や地元経済界の要請を受け、59年に電気科、平成5年に情報技術科を次々に設置、現在の5科（土木・建築・電気・情報技術・機械）が確立する。校地面積約3万5700m²、建築面積約1万7500m²を有する単独の工業高等学校。現在もなお、施設と敷地を拡大し続け、「中部地方随一の伝統と充実した教育内容を誇る総合工業高等学校」という定評を固持する。まもなく90周年を迎える学園からの卒業生は、優に3万人を越え、官公庁や産業界などで目覚ましい活躍を続けたり、企業経営に取り組み、その技術と才能を地元産業界で発揮、貢献したりしている。

校歌の歌詞にある「ここに名工健児あり」という言葉が示すとおり、強くたくましい男作りに励む男子校。「文武両道」をも標榜する厳格



震度7の激震にも耐える国内最高級の免震装置

な指導体制は、今の時代において、貴重な存在として異彩を放ち続けることだろう。

3. 「日本一の校舎」の完成

平成12年度、創立80周年記念事業の一環として、わが国学校建築としては初の免震構造の8階建て校舎（高層棟）と3階建て校舎（低層棟）を完成する。震度7の激震にも耐えられる最高級の免震装置が地下基礎部分を支える。

4. 「日本一の校舎に日本一の学校教育」

創立以来、本校は、独自の学校価値向上策を策定し、優秀な工業技術者の養成を目標に教育活動を続けてきている。「心身の健全」「着実な修学」「礼節を尚ぶ」という学園理念に基づき、卒業後の就職を意識した指導を徹底する。

挨拶や言葉遣いなどの礼儀作法、頭髪や服装といった身だしなみをはじめとする基本的生活習慣に関する指導、集団行動力や精神力・体力の向上を図る日々の委員会活動とクラブ活動、日常の授業及び資格取得・検定合格を目指す専門分野の学習は、全て人格形成に直結し、生きる力と技術を身につけるためのものである。これらの指導と活動を総称して、本校では「完成教育」と呼び、徹底した実践をしている。

本校の永年の地道な取り組みが実を結び、地元企業からは高い評価を受け、就職率100%の実績は揺るぎないものとなっている。

私立学校の新校舎建設ラッシュが続くが、本校はそのさきがけ的存在となった。規模・性能ともに最高ランクの評価を受ける新校舎が建ち、伝統ある学園理念に加え、「日本一の校舎に日本一の学校教育」という新しい理想が生まれた。

学校長と教職員が一丸となって学校レベルの向上に努め、生徒は、自己の将来の幸福を祈り、自身への付加価値の定着を貪欲に求め続ける。これこそが、理想に近づいた学校の姿である。

5. 全国トップレベルの資格・検定合格実績

① 「第二種電気工事士」で全国第1位

平成9年度、「第二種電気工事士」の合格者数で全国第1位となる。情熱あふれる教員スタッフによる創意工夫のオリジナル授業と、生徒の直向きな努力の積み重ねは、その後、12・13年度の2年連続、16・17・18年度の3年連続、合わせて6度の全国第1位という栄冠の獲得を実現させた。とりわけ、資格受験競争が激しくなり、全国的な全体レベルが上がっている中で、昨年度、第2位の学校に100人近くの大差をつけて、272名の合格者を輩出して日本一となったことは快挙である。他の追従を許さない実績と言っても過言ではない。

② 「危険物取扱者」でも全国第1位

「危険物取扱者」の年間合格者数でも全国第1位に輝いたことがある。乙種第4類は全校生徒が受験する。乙種全類に合格し、「甲種」と同等の資格を獲得する生徒も多い。

③ 難易度の高い「情報処理技術者」

「初級システムアドミニストレータ」の年間合格者数は、県内トップの成績の座を譲ることはなく、18年度は、2年生が一度に9名合格するという新記録を打ちたたてた。彼らは、さらにハイレベルの「基本情報技術者」に挑む。

④ 全国レベルの建築製図コンクール

社団法人日本建築協会主催のデザインコンク



免震構造8階建て校舎と隣接する3階建て校舎

ールや東日本建築教育研究会主催の製図コンクールなどの各種の設計競技（コンペ）における入選・受賞記録は枚挙にいとまがない。

⑤ 裾野を広げて、新たなる挑戦

本校の資格・検定への取り組みは、これまでの好成績を維持しながら、さらに各種の新しい分野に挑んでいく態勢である。教職員の研究と修養、手腕の真価が試される。

⑥ Jマイスター認定者数で頂点を目指す

全国工業高等学校長協会が認定するジュニアマイスター顕彰制度は、新設以来、本校の実力の高さを如実に表すものとなった。認定者数は、毎年の県内トップは言うに及ばず、平成16年度は全国第6位、17年度の前期は全国第5位となり、18年度を含めて3年連続で優秀校の表彰を受ける。十分に頂点が狙える位置である。

6. 本校における「文武両道」の「武」の実情

資格・検定への取り組みを中心とする職業教育を「文」とした。次は、肉体を鍛え、精神を磨いて、人間としての総合力の向上を図る「武」の実践部分を紹介する。

伝統ある運動部の健闘は、年々、高い戦績を生み出す。クラブ活動に励んで培われた健全で強固な心身は、3ヶ年皆勤を達成するだけでなく、今昔を問わず、企業で高い人気を得ている。

① 創部50周年のレスリング部の偉業

インターハイ、国民体育大会、全国選手権大会という全国大会に毎年出場する常連である。数年前の選手権大会には団体出場を決め、創部50周年に花を添えた。今春卒業の3年生が2度の全国優勝を果たし、続いた2年生3名も、4県の強者が集う東海大会を準優勝で勝ち抜いて全国大会でも勝利、部史に残る快挙を挙げた。

大学時代に日本一のチームに所属していた監督が率いる本校のレスリング部は、高い技術の習得はもちろん、精神面の真の成長を図りつつ、

日々の厳しい練習に挑む。生徒は、「名工健児」の名にふさわしい成長ぶりを見せてくれる。

② 創部まもないボクシング部の活躍

創部以来、すぐにインターハイや国民体育大会に出場して接戦を繰り返している。全国を制覇する勢いの者もいて、プロデビューしている。昨年度も、在学中の3年生がプロデビューし、応援に駆けつけた生徒や教職員の目の前で、デビュー戦を勝利で飾った。

「ボクシング部は、人間を作る場であり、競技技術だけの体得を目指す者は不要。」と顧問は言う。手作りのリングと練習場。半端な気持ちでない有志が集まり、勝利者だけが味わえる栄光を目指して、毎日汗を流している。

③ 総勢60名近い柔道部の文武両道

団体戦で必ず県内ベスト4となり、東海大会に連続出場する。歴代OBも、全国大会出場など、輝かしい実績を残し、社会で活躍中である。

多くの生徒が初心者として始め、試合出場だけでなく、段位取得を目指し、等身大の自分を見つめて頑張る。礼儀作法を身につけ、責任感ある行動は定評があり、大会では、どの学校より多く係員として立ち働く名工生の姿が目をひく。学業優秀者も多く、まさに文武両道である。

④ 「名工と言えば、ラグビー部」

過去に8回の全国大会出場経験を持ち、花園グラウンドを沸かした。現在も部内に脈々と受け継がれるラグビー精神が発揮され、県内私学祭の優勝経験は数えきれない。東海総合体育大会の出場をも不動のものとしている。



秋から冬には白い山茶花が咲き乱れる屋上庭園

日々の厳しい練習を乗り越え、実戦力が発揮されるプレイとノーサイドを繰り返すたび、強靱な肉体と精神力、絆が築きあげられていく。

⑤ 目覚ましい成長を遂げる弓道部

本校の施設として、全国でも珍しい2階建ての弓道場がある。週に6日、精神力の続く限り、弓をひき続ける。県大会の常連であり、各種の大会での優勝、金的賞受賞の実績が輝く。

礼儀と精神面の伸長を重んじる部内の空気が確立され、戦績のさらなる上昇は必至である。

⑥ 校外からも賞賛される剣道部員の礼

錬士六段の段位を持つ顧問の指導は、温かくて厳しい。強豪が揃う市内でベスト8の実績。

ある大会後のこと、部員達の試合での健闘は言うに及ばず、係としての活躍、道場外での礼儀、立ち居振る舞いの素晴らしさを讃える手紙が届いた。卒業後の各界での奮闘は無論である。

その他、県内ベスト8の卓球部をはじめ、硬式野球、陸上、スキー、サッカー、ソフトテニス、陸上ホッケー、ハンドボール、バスケットボールの各部、水泳同好会がある。

すべてのクラブが、礼儀作法をはじめ、人として大切なことを身につけることを重んじ、単なる技術の習得や体力作りのみを目的としているのではない。試合に勝つことも大事だが、それ以上に学ぶべきものがあるということである。

クラスメイトとは違い、クラブのチームメイトは3年間をともにする。真の絆で結ばれて、苦しい練習を一緒に乗り越えた仲間同士には、時には、血のつながった兄弟以上の関係も生まれる。人生の師匠となる顧問との出会いの素晴らしさも筆舌に尽くしがたい。卒業時のお別れ会では、こらえきれずに大泣きする顧問と健児も多い。本校のクラブにおける人間教育は、おおよそ成功を収めていると言って良いだろう。

7. 「3ヶ年皆勤」者の多さが実証する学校の魅力

本校の教育が高く評価され、就職率100%を維持できることは大変ありがたいことである。中学校からの信望も厚く、県下300に近い学校からの入学希望者数の多さはずっと変わらない。

3ヶ年皆勤の生徒が多いことは本校の伝統的な特長の1つであり、特筆に値する。卒業式の日、3ヶ年皆勤生徒は、栄光の大舞台で名前を読みあげられ、高らかに返事をする。その誇り高き雄姿は、在校生から羨望の眼差しを受ける。

入学してすぐに本校の魅力を知る生徒達は、毎日の生活を心底楽しんでいっている。これまで体験できなかった充実感や達成感を味わう機会が多いという本校の実情も手伝う。自己の成長という至福を感じて「新しい自分」と出会った者は、生き生きとした表情で毎日を送り、自らの手で良いリズムを生み出すのである。

生徒本位の行き届いた学校環境に加えて、生徒自身が、日常の中で楽しい雰囲気を作り出していることは、校内にあふれる笑顔が物語っており、これこそがまた本校の魅力である。

8. おわりに

崇高な理想を実現するには、安定感の維持を図り、大勢を洞察して慎重に臨む姿勢を崩さないことである。一方で、新しいビジョンを持ち、決定打となる「武器」をも創り続けていきたい。

教員の後進の育成も急務である。本校は、円熟味を増したベテラン教員と伸び盛りの若手教員とが力を合わせて組織を拡充し、卓越した指導ノウハウをさらにレベルアップさせながら、新たな体制を築きあげていくことだろう。

「文武両道」の強硬姿勢で全国のトップ争いに参加する本校は、全国工業高校のリード役として躍進するにとどまらない。常に時代と社会の要請に応えながら、次世代を見据えた進化をし続け、今、新たな段階を迎えようとしている。